

# 「人間」と「テクノロジー」の共生 による新しい介護のあり方

～介護テクノロジー導入で解決できる業務とは？～

---

2020年12月21日

ながさき県Society5.0セミナー



## 片岡 眞一郎

SOMPOホールディングス株式会社  
Future Care Lab in Japan 所長

28歳で介護の世界に入り、介護付ホームで介護職を経験後、採用・教育の仕事に携わる。介護職員の人材の確保が喫緊の課題と感じ、2019年2月に介護職の業務負荷軽減・介護現場の生産性向上を目的に、介護・福祉の関わるテクノロジーの開発・研究センター「Future Care Lab in Japan」をSOMPOグループ内で立ち上げる。

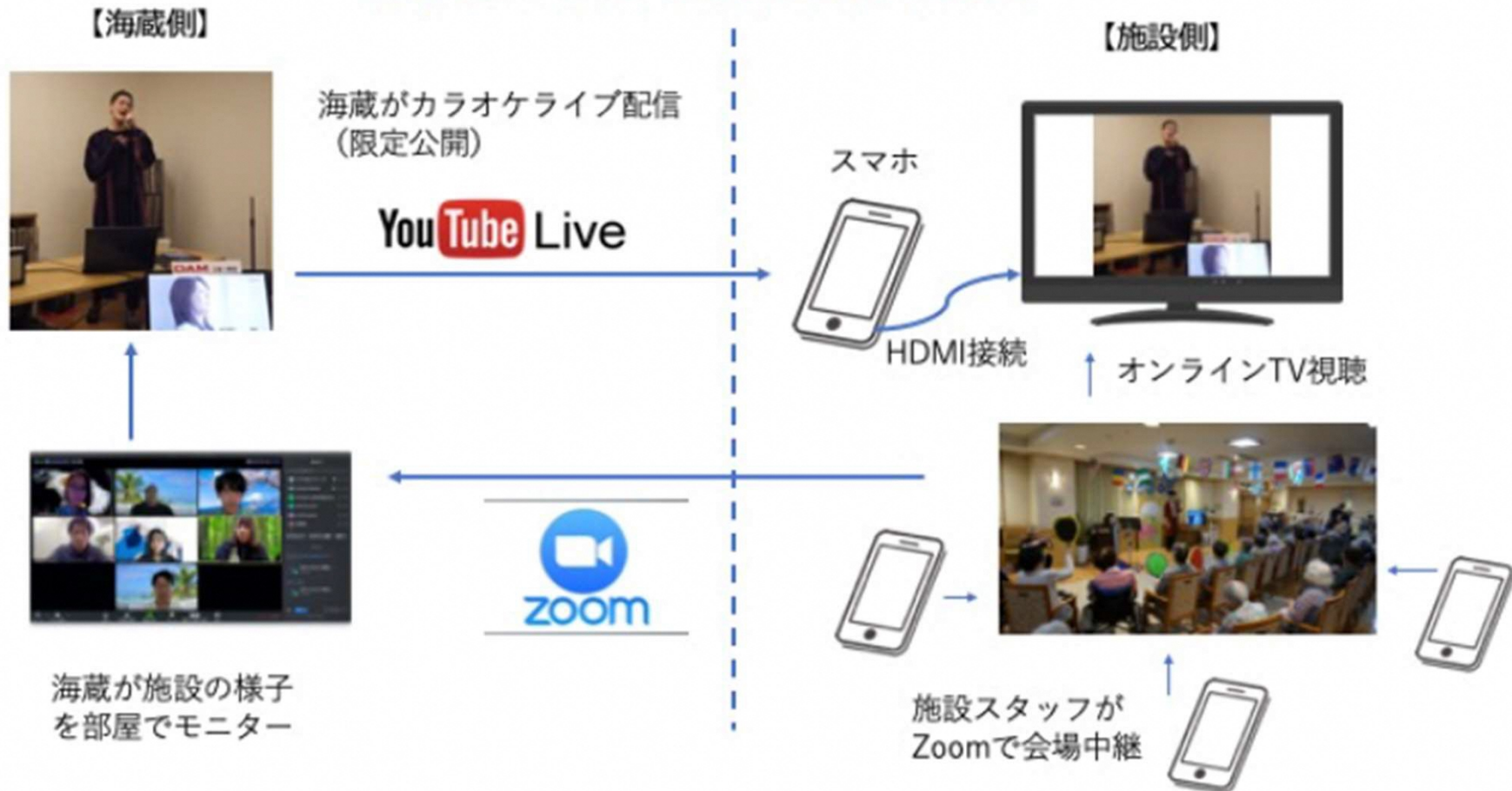


## 対面での面会の代わりに ご家族さまと入居者さまがオンラインで面会



## ソーシャルディスタンスを保ちながら リモートアクティビティを実施

### 海蔵亮太 オンライン慰問ライブ 概念図



**1.SOMPOグループの紹介**

**2.Future Care Lab in Japanの取り組み**

**3.介護テクノロジー導入で解決できる業務とは？**

**4.先端テクノロジー導入に向けて**

# 1. SOMPOグループの紹介

Future Care Lab in Japan

損害保険ジャパンほか



SOMPOひまわり生命保険



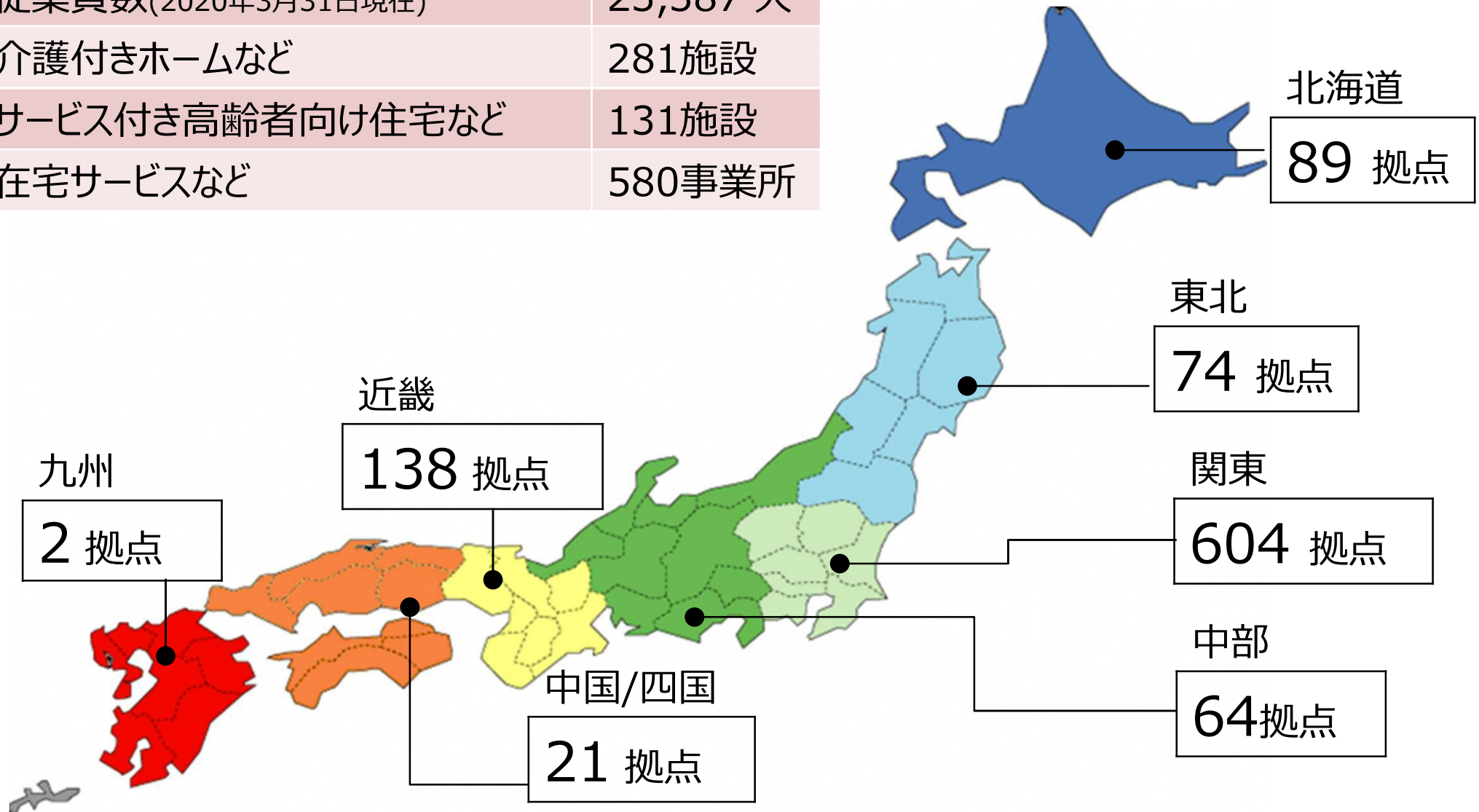
SOMPOケア

30カ国・地域、218都市

# 1. SOMPOケアの概要

SOMPOケアの概要	
従業員数(2020年3月31日現在)	23,387 人
介護付きホームなど	281施設
サービス付き高齢者向け住宅など	131施設
在宅サービスなど	580事業所

サービス拠点 (2020年4月1日現在)



## 「Future Care Lab in Japan」



介護・福祉に関する新たなテクノロジーを、  
国内外を問わず積極的に導入し実証するための専用施設  
2019年2月5日オープン

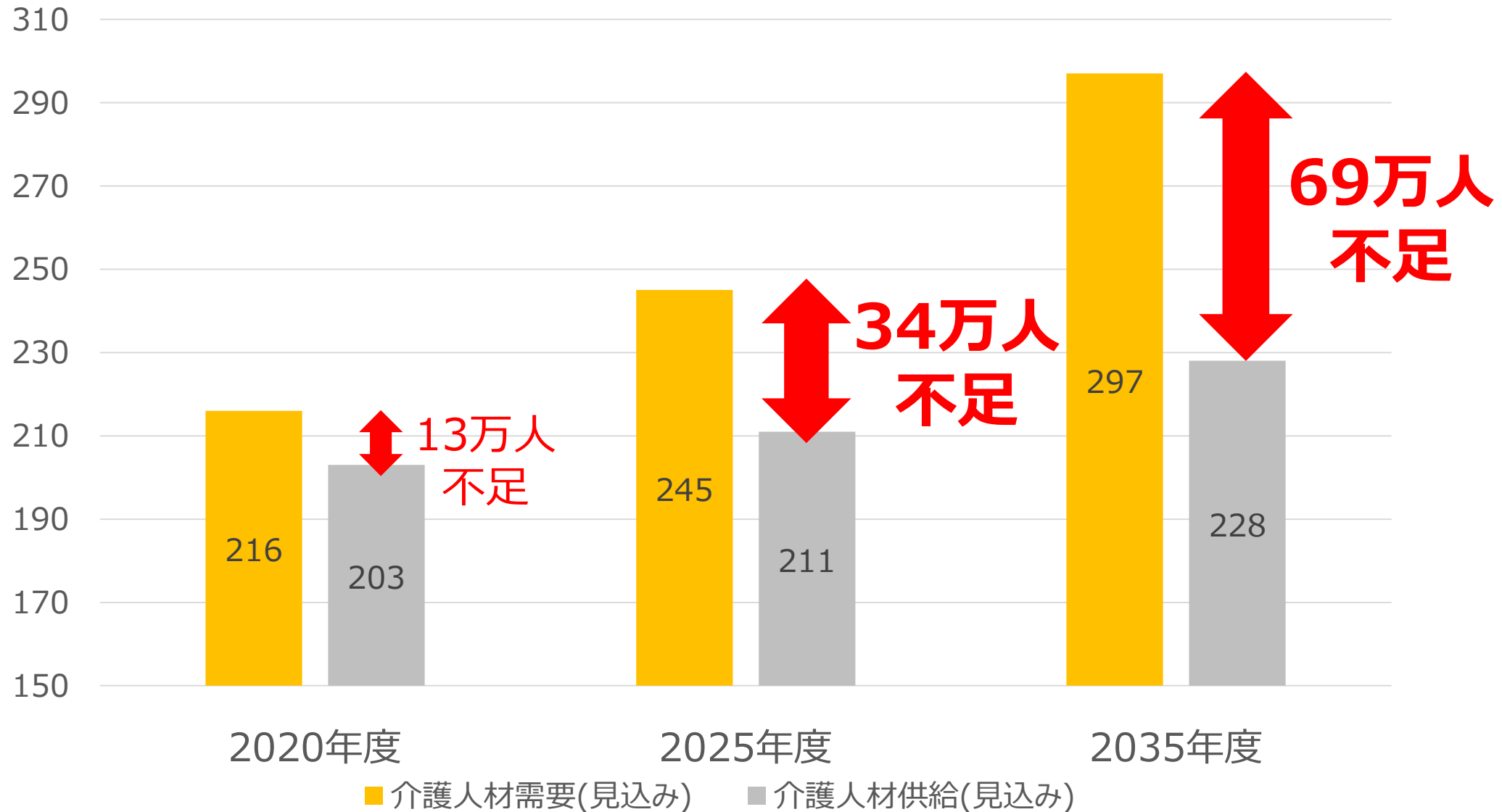


# 2. Future Care Lab の取り組み


---

## 2. 設立の背景 最大の課題－介護人材の需給ギャップ

# このままでは労働者1人1人の負荷が増加



Future Care Lab in Japan

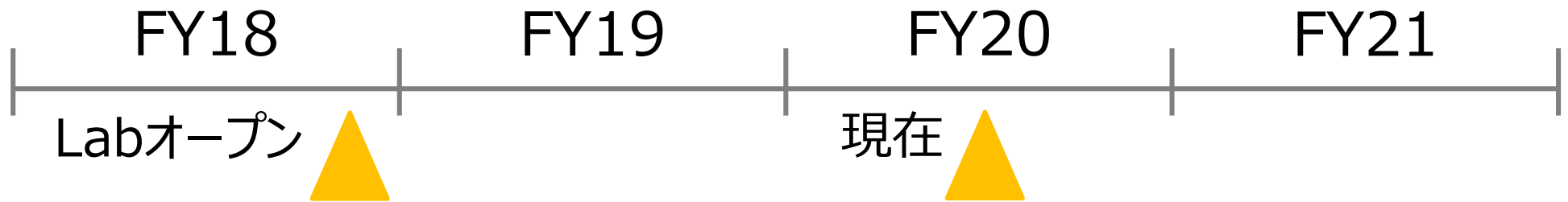


**人間とテクノロジーの共生による新しい介護のあり方を創造**

高齢者の  
自立支援  
QOLの維持向上

介護職員の  
働きやすい  
環境づくり

介護サービスの  
生産性向上



**1 業務洗い出し / 業務時間算出**

**2 テクノロジーの置き換え検討 / パートナー探し**

**3 安全性検証・技術検証 / 共同開発**

**4 在宅・施設への展開**

## 2. テクノロジーの置き換え検討/パートナー探し

# 3大介助の周辺業務を置き換え

### 直接業務

#### 食事

- 食事介助

#### 入浴

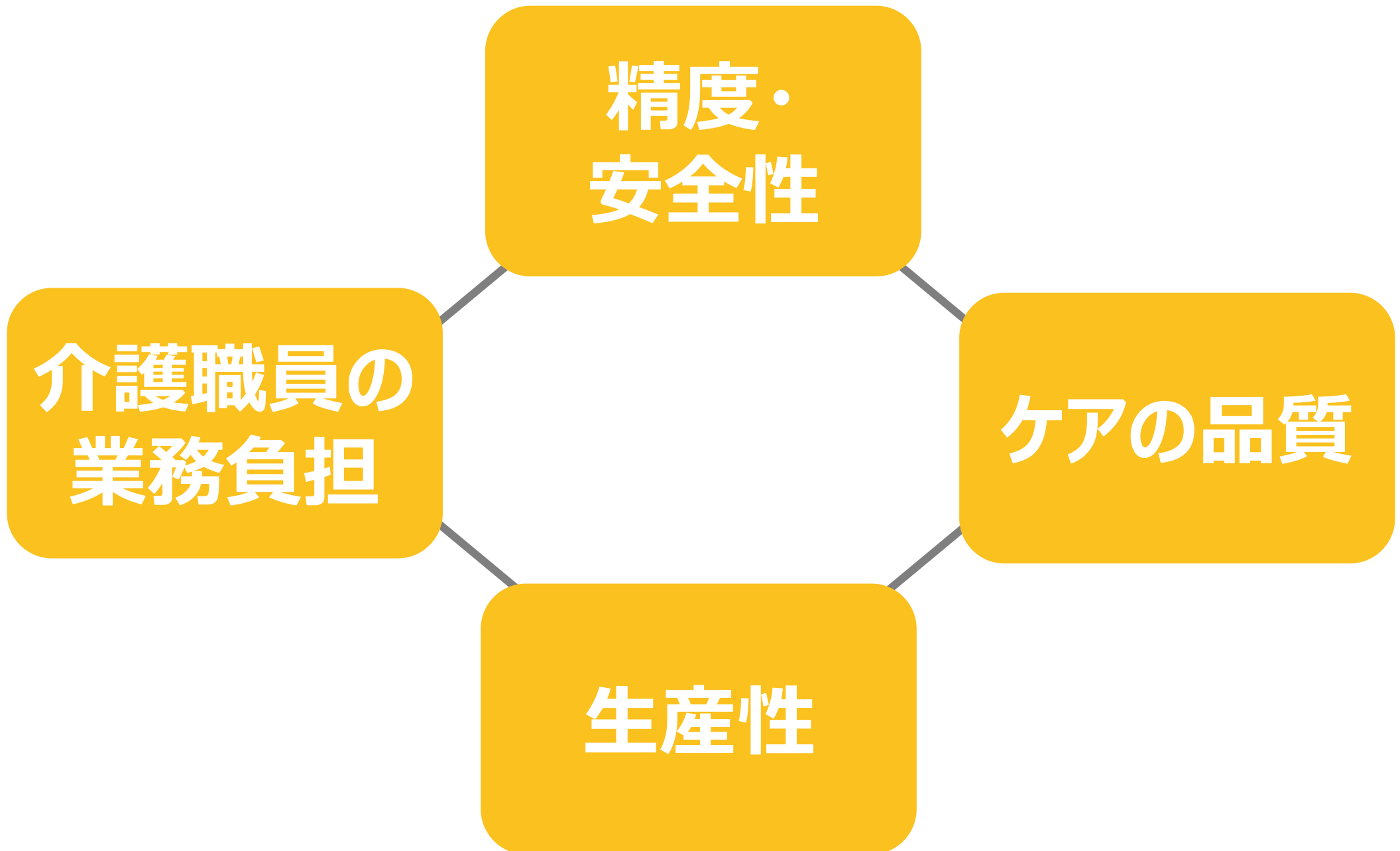
- 更衣介助
- 入浴介助

#### 排泄

- 更衣介助
- 排泄介助

### 周辺業務

- 食堂への移動
- 配膳/下膳
- 記録
- 入浴準備
- 洗濯物の集配
- 見守り
- 記録
- ベッドからトイレへの移動
- 排泄処理
- 記録



手間かからない  
便利、操作ラク  
ケアの品質向上



利益貢献  
人材確保  
リスクマネジメント

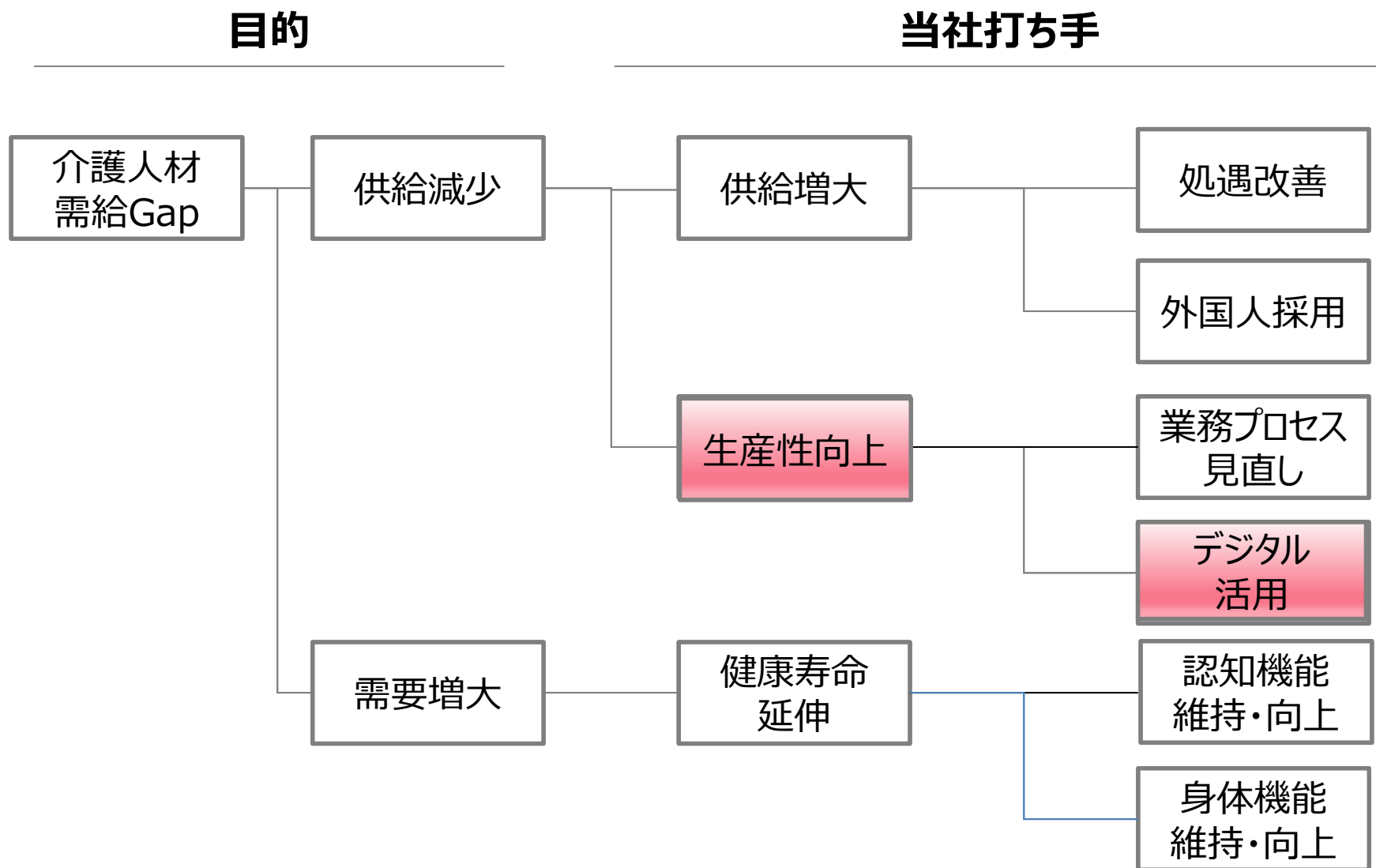




# 3. 介護テクノロジーで 解決できる業務とは？

---

目的を決めることが重要、打ち手（HOW）はテクノロジーとは限らない

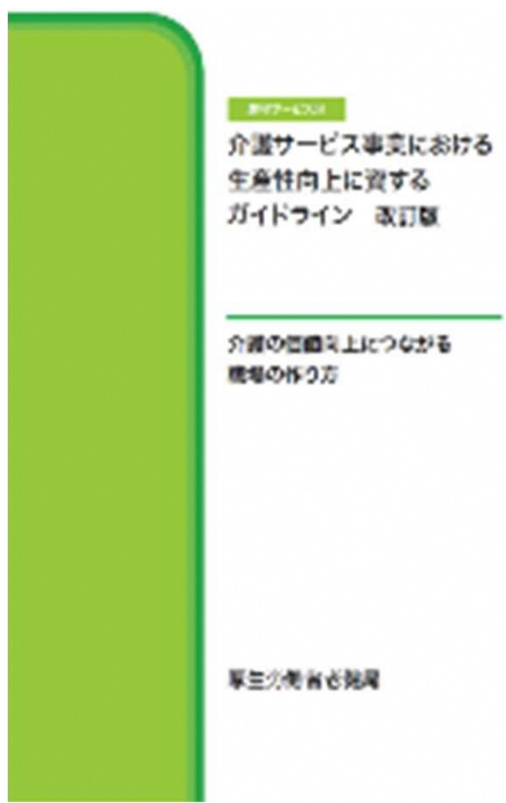
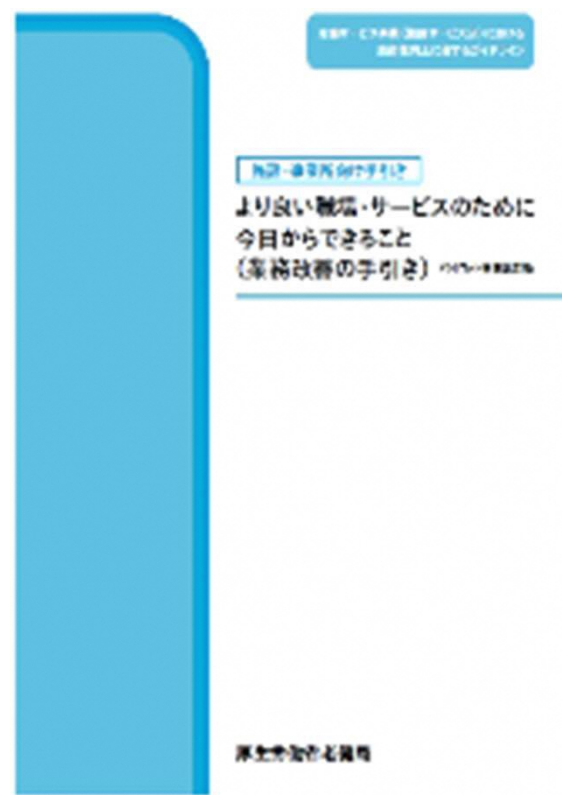


# テクノロジー導入事例

---

# 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン

厚生労働省のホームページからダウンロード可能  
業務改善の事例の一つとして、ICTが掲載されている



課題

記録が手書きになっており、さまざまな帳票に転記している

ゴール

記録の簡便化（転記不要）、必要に応じてアウトプット可能

補足

情報をタイムリーに共有したい、ケアの質を向上させたいなど目的に応じて判断

## Axsit（施設）



## Sompo Care Wing（在宅）



# 見守り支援システム「睡眠センサー」(施設向け) Future Care Lab in Japan

課題

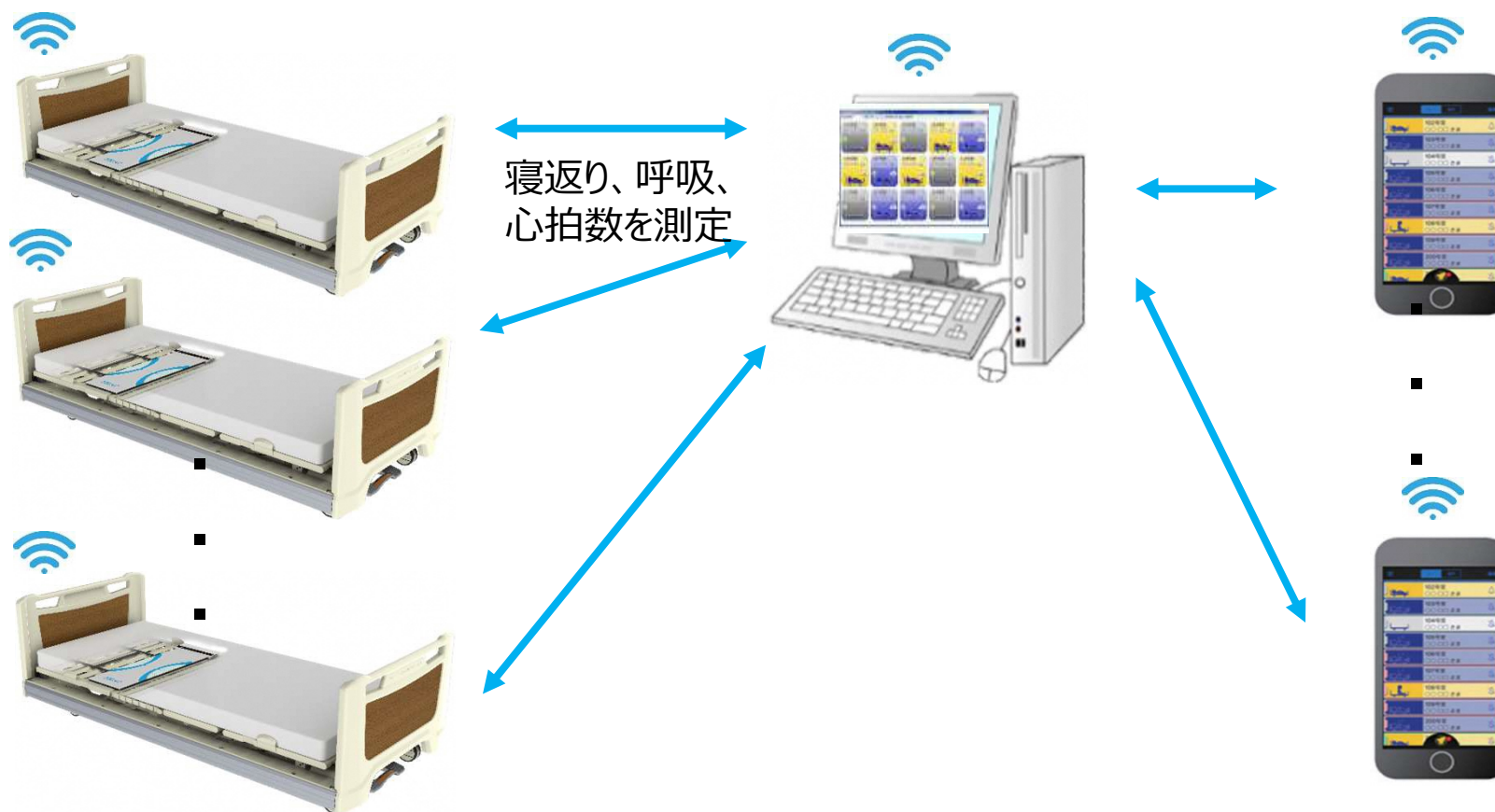
介護職員の人員不足、職員の夜勤の業務負荷が大きい

ゴール

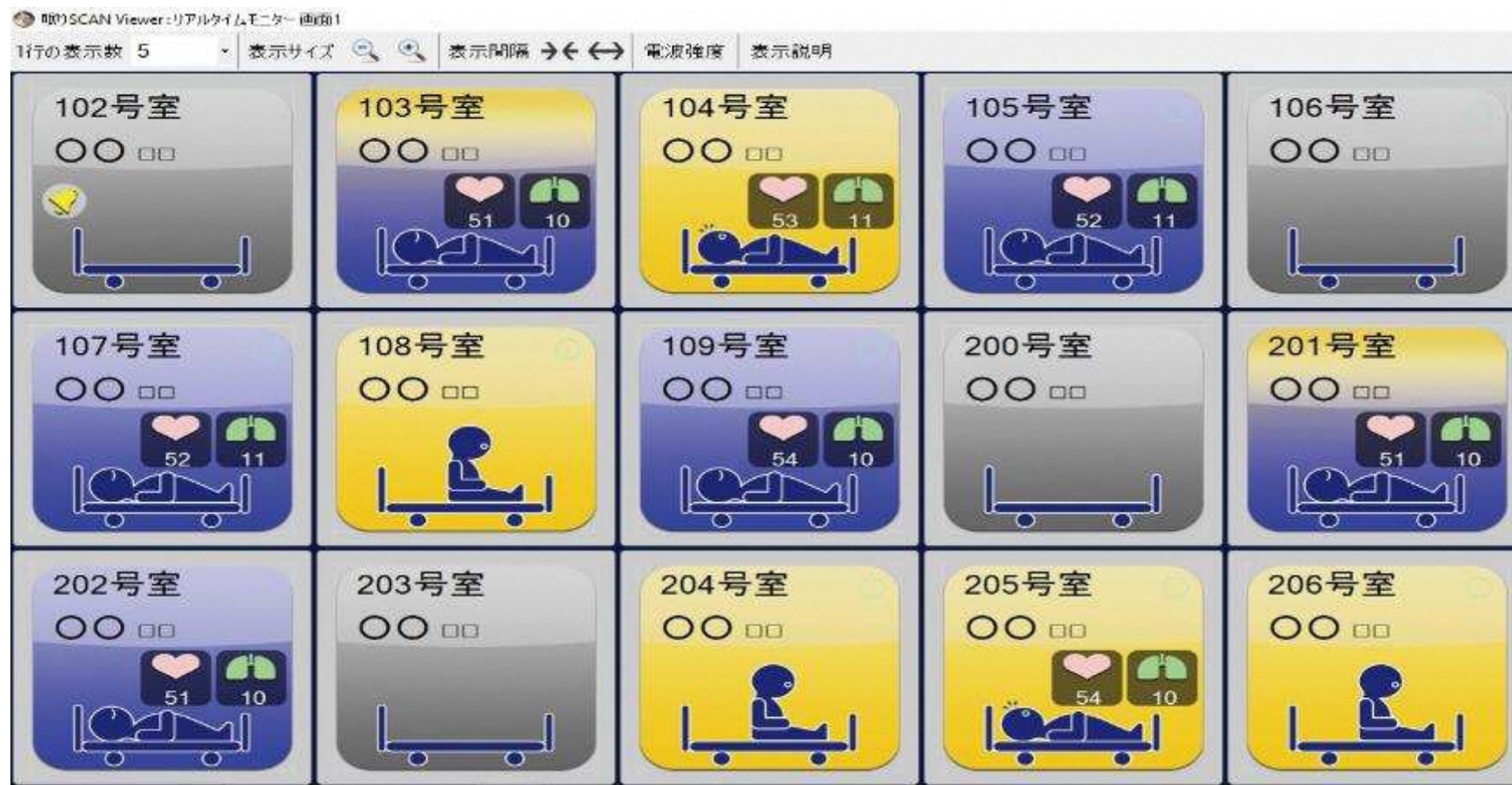
職員の業務負荷軽減と夜間の必要人員の削減

補足

ネットワーク工事や各種デバイス(PC等)、基幹システムの連携等も踏まえて判断



# 見守り支援システム「睡眠センサー」



表示説明

「ベッド上で眠っている」と判定されている状態です。	「眠っていない」状態から「眠っている」状態への移行中です。	「ベッド上で眠っていない」と判定されている状態です。	「ベッド上で起きあがり」を検出した状態です。 ※検知後15秒間表示します。	「ベッド上に人がいない」と判定された状態です。	測定停止	パソコンと眠りSCANが通信できていない状態です。

課題

介護職員の人員不足、入浴介助の業務負荷が大きい

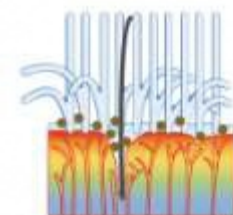
ゴール

職員の特浴介助時の時間数削減・入浴介助時の業務負荷軽減

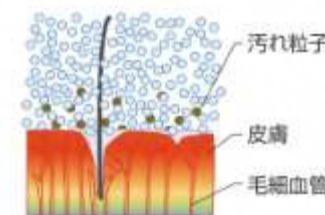


普通のシャワー

300ミクロン超微粒子シャワー



粒子が大きく皮膚表面を  
すぐに流れ落ちる

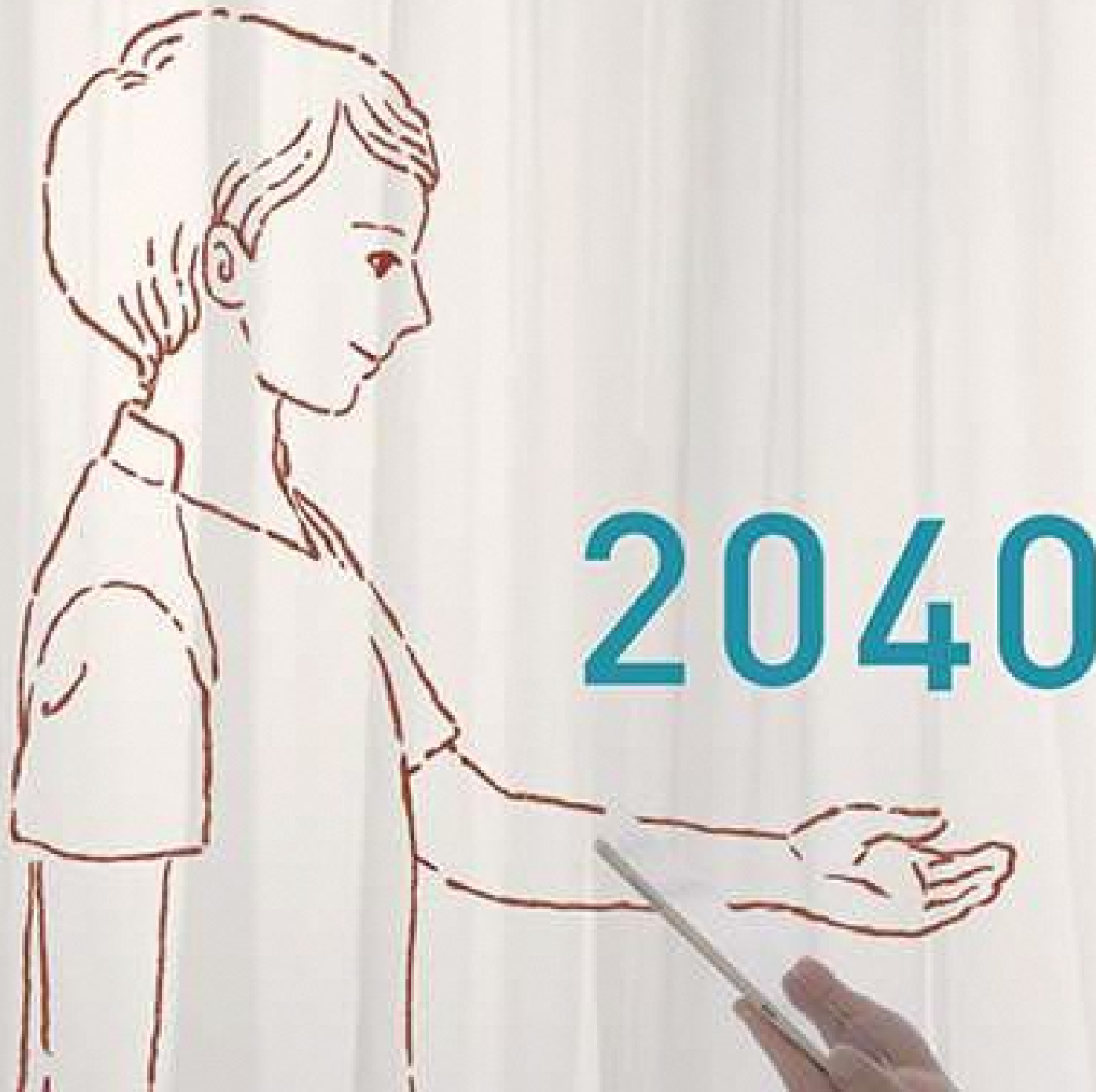


粒子が小さく汚れを  
落としやすい

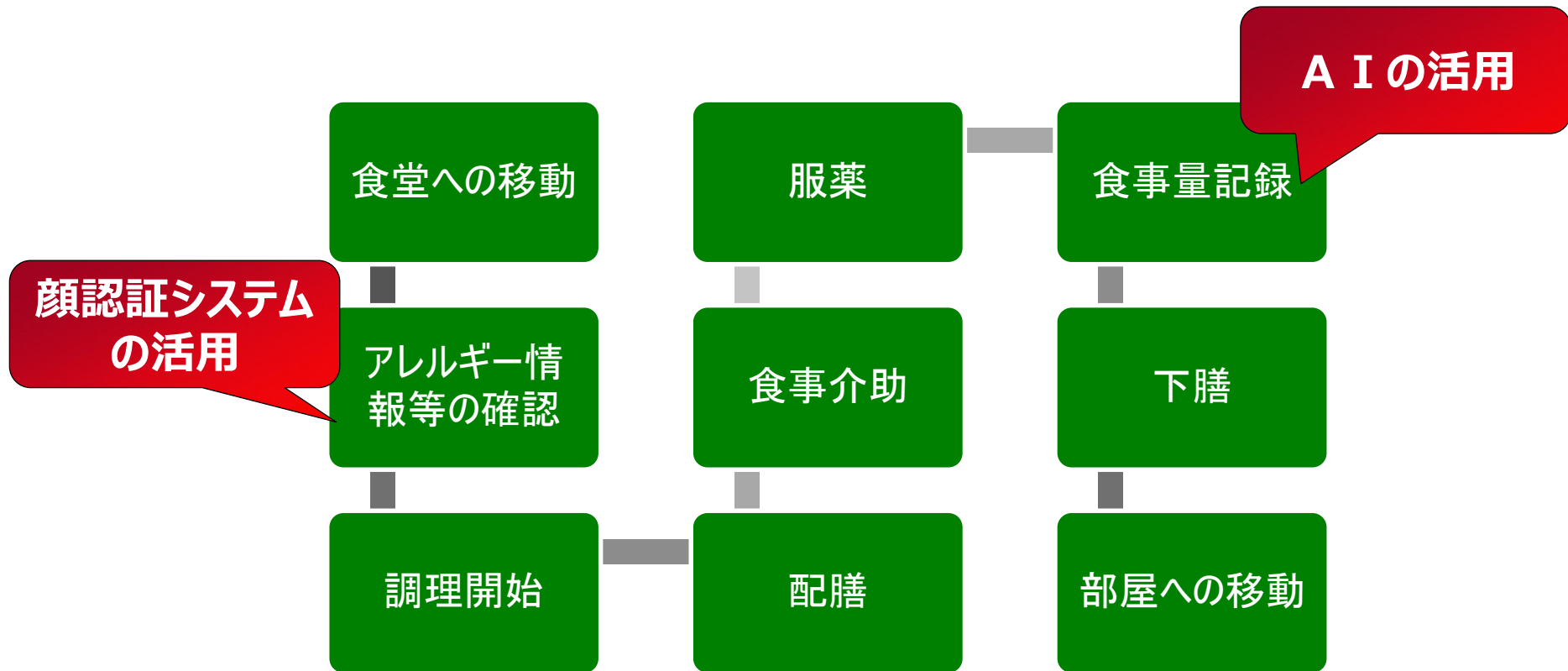


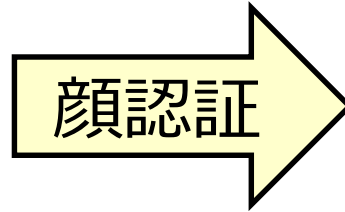
# 4. 先端テクノロジー 導入に向けて

---

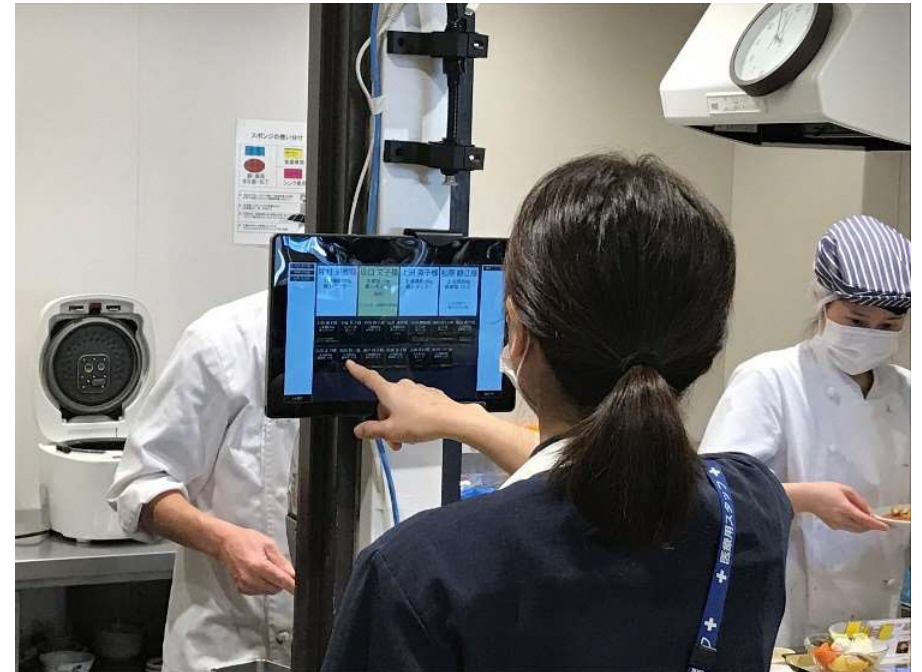


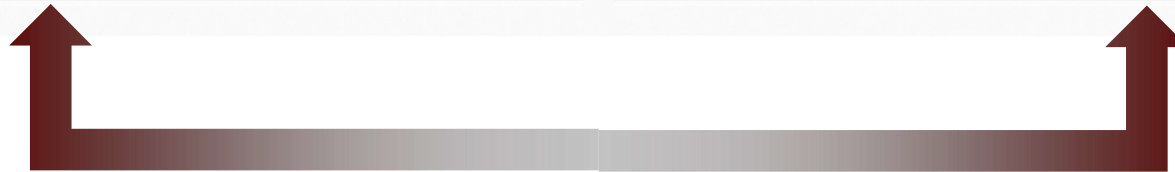
課題	食事は介護施設のピークタイムであり人員を手厚くする必要がある
ゴール	食事時の生産性向上、テクノロジーによる代替可能性の検証





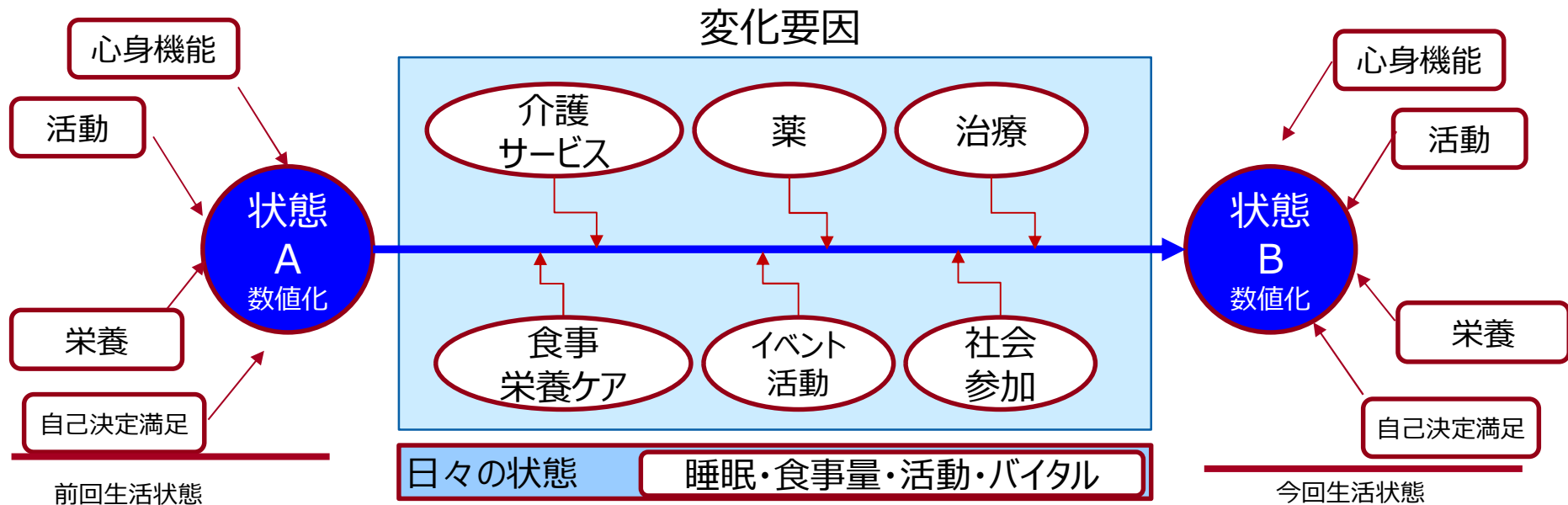
アレルギー情報等を  
タブレットへ表示





AIで画像比較し、食事量を記録

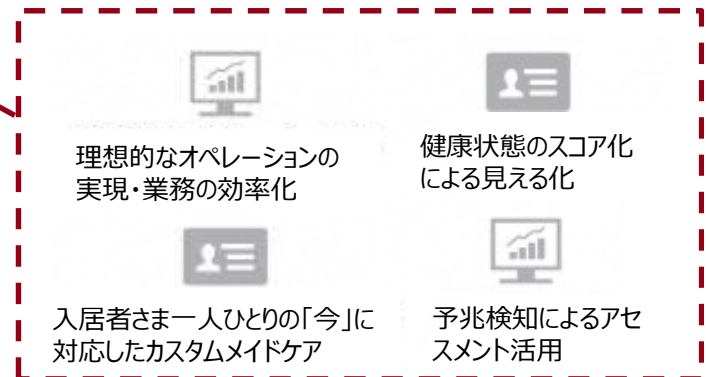
あらゆる情報をデータ化し一気通貫で管理するプラットフォームを構築し、社員の経験や直感に頼らず確かなエビデンスに基づいた「科学的介護」の実現に取り組めます。



リアルデータ蓄積

リアルデータ活用

リアルデータ分析





SOMPOHD 梶崎CDO, Palantir創業者ピーター・ティール氏、SOMPOHD櫻田CEO

Future Care Lab in Japan

**ご清聴ありがとうございました。**